

提出日：令和3年 2月 28日
 所 属：生命・環境科学部 臨床検査技術学科
 氏 名：石崎直人 職位：准教授

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）				
<p>微生物学総論では微生物を構成する細菌・真菌・ウイルスの基礎的なことを学び理解し、説明が出来るようにする。微生物学実習では細菌の操作法を習得し、培養ができるようにする。臨床微生物実習と病原微生物学実習では病原菌を培養し、菌種の同定ができるようにする。</p>				
科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
臨床微生物学 I	M	必	2	80
微生物学総論	F E	必	2	160
微生物学実習	M F E	必	2	240
臨床微生物学実習	M	必	3	80
病原微生物学実習	F E	必	2F 3E	160
総合臨床検査学演習	M	選	4	80
2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）				
<p>我々は生きていく中で日々病原菌の脅威にさらされている。メディアでは多剤耐性結核菌、新型コロナウイルスなどの病原体の名前が多く見かけられる。これらの名前を見た時に、なぜ問題となっているのか、どのように身を守ればよいのかなどを自ら考え、解決法を導くことが出来る人間になってもらいたい。</p>				
3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の最後に確認プリントを実施し、一番重要な項目を必ず覚えてもらう。 ・ 配布資料にはなるべく写真などを多用する。 ・ 授業は配布資料の穴を埋めながら進める 				
<p>アクティブラーニングについての取組 事前学習型授業</p>				
<p>ICT の教育への活用</p>				

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）
<p>① 教育（授業、実習）の創意工夫（B）</p> <p>② 学生の理解度の把握（B）</p> <p>③ 学生の自学自習を促すための工夫（B）</p> <p>④ 学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A）</p> <p>⑤ 双方向授業への工夫（B）</p> <p>事前学習型授業で詳細に指示を出す。</p> <p>※A（十分実施している）B（実施しているが十分でない）C（うまく取り組めていない）</p>
<p>⑥ 国家試験対策としてどのような取組をしましたか。</p> <p>微生物学分野で特に苦手な分野である抗菌薬、グラム陰性桿菌および培地を重点的に補講で講義をした。資料に使用する培地などの写真は自分で培養後に撮影し作成した。</p>
5. 学生授業評価
<p>今年度は前年度の授業評価の結果を授業に反映させなかったが、「授業がサクサク進むの についていけるか不安であった」とのコメントがあったため、次年度は進めるスピード に気を付けて実施したい。</p>
6. 学生の学修成果
<p>① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。</p> <p>② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかりと実験の意図や作業についての説明が逐一説明されていた ・先生の質問に対する答えが適切でとても分かり易い。また、質問がしやすい環境であった。
7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）
<ul style="list-style-type: none"> ・FD 講演会「教育改善プログラム成果報告会」20200929 ・FD 研修「ティーチング・ポートフォリオ作成につながるティーチング・ポートフォリオ・ チャートの作成ワークショップ」20201110 ・FD 講演会「グッドティーチング 賞受賞者から学ぶ“授業の工夫”」20201214 ・麻布大学 FD 研修教育改善のための教員活動状況報告書を活用した「ティーチング・ポート フォリオ」の作成に向けて 20201223
8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）
<p>腸内細菌の同定では多くの培地が使われる。判定方法についてはスライドで示しているが、 消化不良であると感じている。感染の予防を考慮しタブレットの持ち込みは禁止しているが、 感染予防対策を実施し導入も考えたい。</p>
9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ